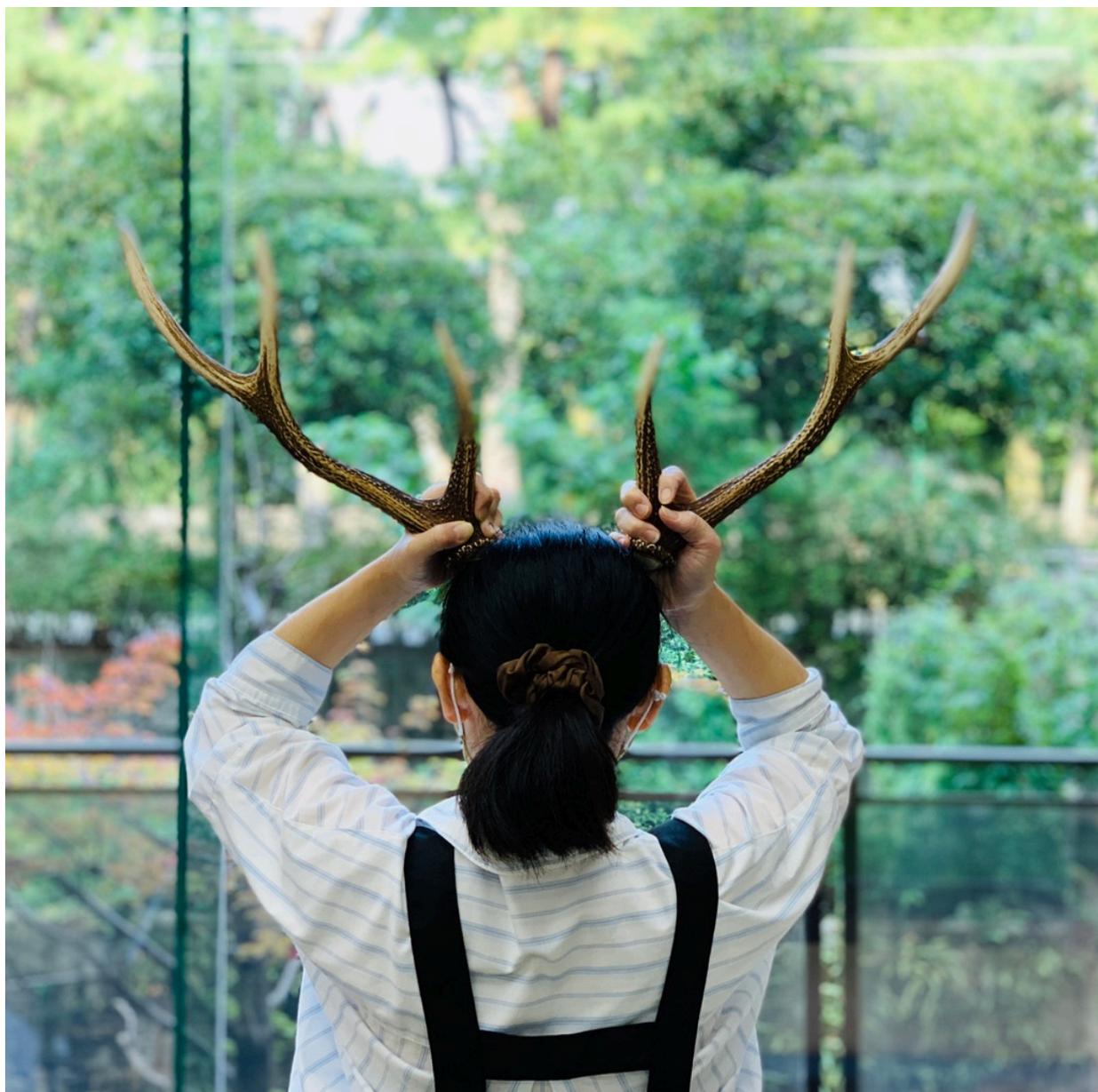


司書の顔がうっすら見えるマガジン

めがね

第三回

誠実であるということ。



名古屋市鶴舞中央図書館

What's this magazine? めがねとは

この冊子は、図書館で働いている私たちのことをうっすら知ってほしいという思いで作っています。名前の由来は図書館司書＝めがねというイメージから(しかし実際のところは…真実を知りたい方は p.11 をお読みください！)。

＼めがねな1冊／

ねないこはわたし

せなけいこ／作・絵
文藝春秋



おばけ絵本『ねないこだれだ』などで人気の作家・せなけいこさん。去年は愛知でも原画展があり、改めて読み直したという人もいらっしゃるのではないのでしょうか。この本では、せなさんが自身の絵本製作にまつわるエピソードを語っています。どうしておばけがたくさん登場するの？ どうして「貼り絵」という手法で描くの？ 質問に対する答えは、どれも明快で力強い。自分の選んだ道、こっちでよかったかな？ と迷っている人の背中をぽーんと押してくれます。

表紙にもなっている「めがねうさぎ」シリーズ誕生のエピソードもとても興味深いです。めがねをいっしょに探してくれるおばけ、わたしにもいたらいいなあ。

* 図書館の中での置き場所など詳しいことはおたずねください。

今号では感染防止のため、出演者はマスクを着用しています。表情がうっすらしすぎていますかと思いますが、ご了承ください。

第三回 誠実であるということ。

コロナ禍で一変してしまった私たちの暮らし。マスクをしていないと周囲の目が痛かったり、旅行に行くともまるで犯罪者扱いされたり。何が正解か、はっきりした答えがわからないからこそ、不安はなかなか消えません。そんな中、図書館で働く私たちにできることは、とりもなおさず「誠実である」ということではないか。今までどおり淡々と、種も仕かけもない情報を提供していく。そのささやかな営みが、誰かの心の安定につながることを祈って。



アルコール除菌、マスク着用、カウンターにはビニールシート、がもはや定着しつつあります。これがなくなる日はくるのか？ はたまたこっちが「日常」になってしまうのか？

「なんも変わっとらん」を維持する。

感染防止のため、手袋をつけて作業。

蔵書点検の様子。一冊ずつ機械でバーコードを読み取っていく。

コロナ禍の影響で約2ヶ月間臨時休館し、やっと再開したある日のこと。「長いこと休んできたのに、なんも変わっとらんなあ」。やってきたおじいちゃんが一言。そうなんです。でも、休館明けにいきなり館内に超ハイテクマシーンとかが出現したら戸惑いませんか。そういう体験は、ちゃんと身構えているときに、他の場所でもいくらでもすればOK。化粧するのが億劫だったり、数日お風呂に入っ てなかったり、無防備な状態で行ける場所には、「なんも変わっとらん」使い心地が一番大切。

蔵書を点検して、迷子の本を見つけたら正しい位置に戻す。新しい本を発注する。何度も読まれて汚くなった本は買い換える。落書きや線引きを見つけたら消しゴムで消す。本が増えたら棚板をずらす。賞味期限の切れた本を廃棄する。どこまでも地味な作業のくり返しが、ほどよく鮮度を保った、風通しの良い本棚を作っています。

訪れた人が、お目当ての棚に行って、ちょっと新しく面白そうな本が増えていることに気づいて、小さく感動する、それくらいの変化を作れたらいいと思っています。大きな反響や称賛はなくても（くれるならもううにやぶさかでない）、おのおのが心の中で静かに好きでいてくれる場所を、変わらず維持していきたい。そう思って、今日もこつこつ働いています。

お仕事動画配信中！

臨時休館中、図書館の職員は何をしていたのかわかる動画を作りました。私たちが名古屋のBUZZ MAFFになれるかどうかはあなたの応援次第です。



ここから見られます

←時々くまちゃんの「中の人」がちら見えする



象が歩いた日を

忘れない。



象がやってきたときの様子は、当時の書物にもばっちり記録されています。脚のたるみがすごい！『小治田之真清水』より。

地味にスゴい、という見出しで、図書館の仕事が取り上げられたことがあります(朝日新聞平成28年10月29日朝刊)。中でも「名古屋なんでも調査団」の活動は、地味の極みかもしれません。ローカルネタをとことん追いかける「調査団報告書」や、地元の人でも知らない偉人にフォーカスした「発見!名古屋の偉人伝」など、**超ニッチ**なところをついているわけです。

そして「なごやカレンダー」。一年365(366)日に**名古屋**しぼりで何が起こったかを紹介するカレンダーです。事件のにおいがする郷土資料を片っ端から読みこんで、日付を埋めていく作業はもはや超難関のパズルのよう。歴代の担当者**の血と汗が染みこんだ**このカレンダーを熟読すれば、「僕たちは今、300年前に象が歩いたのと同じ道を歩いているんだよ」とか、「今日は**名古屋で河童が出没した日**だよ」とか、よくわからないけど何となく知性のただようセリフが言えるようになることでしょう。

図書館の作成物の良いところは、ちゃんと出典が明記されていること(上の象の本も、今回すぐに見つけることができました。ありがとう先輩!)。元ネタになっている郷土資料もセットで読めば、あなたの知性は本物になります。

ちなみにこのカレンダー、実はまだコンプリートできていません。「私の誕生日、空白…」なんて悲しい現象が少しでも早くなくなるよう、今日もパズルの穴埋めは続きます。

河童が出没した日が気になる人は図書館のHPで早速カレンダーを見てみましょう。その他の調査団コンテンツもどうぞ。



ここから見られます



ポケットの

中身

を

見せてください。



絵本『ペンギンがたこやの』柄のハンカチ。大人気絵本です。



落書きはタメー絶対



本にカッター・ノコギリカッター・ハサミ用の



何百枚でも数えられる指サシ



絶対区入れたいし太字に

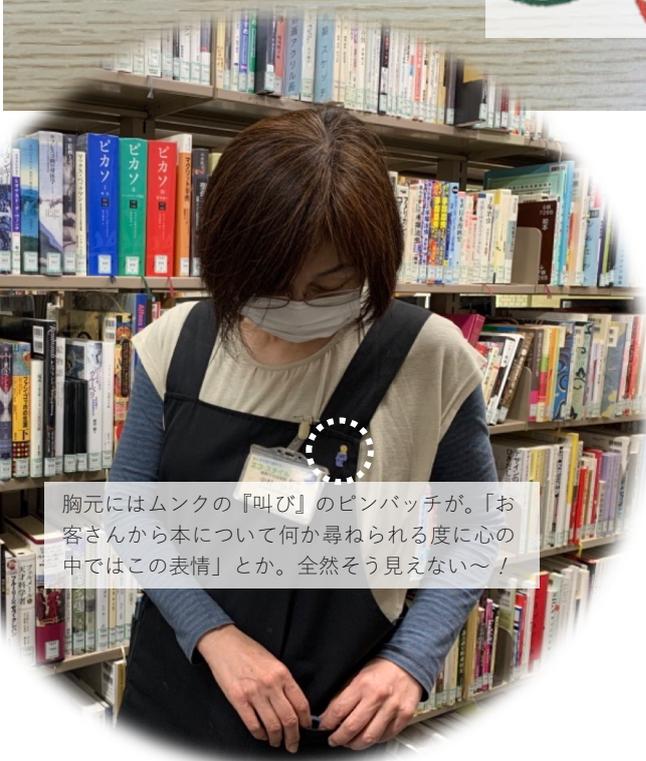


本の修理に



私物はんこいろいろ

イベントに参加してくれた子どもたちに喜んでもらいたくて特注した「よくできました」。以来、担当が変わる度に新しいコレクションが増えているそう。押す方も押される方も思わず笑顔に。



胸元にはムクの『叫び』のピンバッジが。「お客さんから本について何か尋ねられる度心の中ではこの表情」とか。全然そう見えな〜!

中村さんは頼れるお姉さん。これまでに培ってきた知識と経験で、迷えるわたしたち後輩をいつも導いてくれます。そしてほしいと思ったものが全然見つからないことで有名な我が事務室にあって、彼女のエプロンのポケットはさながら魔法のよう。急に油性マーカーで文字が書きたくなったときに、これまで何度助けられたことか…。「ただ面倒くさがりなだけよ」と本人はおっしゃいますが、時と場合に応じて必要なものがすぐに取り出せるって、基本的なことなのになかなかできない。千里の道も一歩から。憧れの先輩に近づくために、まずはこの「スターターセット」を身につけることから始めようと思ったのでした(そう、形から入る派です)。

B班の返却と2L時間は一泊予定通り行なう。

西村くんの字。

70) (書記が混乱して内容がまぼろしではありません。すみません)

14:00 - 奉1. 奉2 合同ミーティング

重の画はツィッターにアップ。2分20秒まで

→ 狭い下を70分ほど見せつけて下さし

奉1は蔵書点本争かやアのテーマを
ライクをし信ら休館中の交て定かか

本の連想ゲームとしてテーマの本を2つ紹介

オンライン図書館。→ 10月をみた行日天(1) 需用定を2紹介

平日新聞: 400字程度のコラムが作られたので調査団や
など書いてきただけ。募集中→ 川崎奇さん担当して下さることに決まりました。

重の画は司書が出来ることが必要

B班はつこのために学びを全編に使う

在宅勤務中に全員が計14を7月10日(後日)に持った再検討

このライブ感あふれる字を見よ!!
「書記が混乱」している様子がひしひしと伝わってきます(ある日のミーティングノートより)。



臨時休館中は先輩を相手にカウンター対応の練習をしました。何気にカメラ目線。



新人研修ではあこがれの高木係長(一番左)からみっちり講義を受けました。

今年、入ってきた新人さん(p. 10)のひとり、西村くんの字は素朴な雰囲気वादだよっていて、いいなあ、味わい深いなあといじつくり鑑賞してしまいます。本人に聞いてみると、「字を書くのは苦手」とのこと。「大学のときは自分で取ったノートが自分でも解読できなくて困りました(笑)。これではだめだと思って、働き始める前に、習字の本で練習しました」。

そんな西村くん、大学では法学部で政治を専攻していたのですが、司書を目指す学生の集まりに参加して、各地の図書館を見学したりしているうちに、図書館で働きたいと思ったそうです。

「最近では『場としての図書館』というか、地域の人たちが集える場所になることが重視されていたと思うんです。ただ、今回のコロナ禍でそれが難しくなっている。あるべき図書館の姿が見直しを迫られている、大変な時期に入ってしまったなど」。

目指している司書像をたずねると「(上司の)高木係長!」とのこと。「調べものに苦戦して相談したら、すぐに何冊も本を紹介してくれて。びっくりしました!僕もそんなふうになれるようにがんばりたいです!」。うーん、まぶしい。字から受けた印象の通り、まっすぐで、さらさらした答えが返ってきました。

小さな声を取りこぼさないために。



朝、目が覚めたら頭から角が！卒倒するママそっちのけで、この状況を楽しむ女の子が印象的。
『まあ、なんてこと！』（デイビッド・スモール／作 平凡社）より。

児童室は、大人も子どももくつろげるすてきなところ。特に子どもにとっては、自分のことをやさしく受け止めてもらえる大切な場所です。今回は、そんなあたたかい雰囲気を作っている担当のひとり、新藤さんにお話を聞きました。

表紙に登場した鹿の角は本物！しかも何と新藤さんの私物です。キャンプに行ったときにもらってきたそう。「ブックトーク（テーマにそって本を紹介すること）のつかみとして使ったりします。子どもたちは大ウケですね」。

子どものときから生き物が好きで、カエルをバケツいっぱい捕まえたり、トカゲのしっぽを集めたりしていたのだとか。理科の授業で牛の目玉の解剖があったときも、嫌がる子が多い中、物怖じせずやりとげたそう。「グロいのも全然大丈夫で、それは今の仕事にも役に立ってるかも。生き物好きの子とも渡り合える。私が捕まえたカエルのほうが大きかったよって（笑）」。

子どものときから本は好きでしたが、家にはあまり本がなかったと

いう新藤さん。「読み聞かせもしてもらった記憶がなくて。だから『ぐりとぐら』とかもこの仕事を通して初めてちゃんと出会いました。本好きになったきっかけは、小学生のときの担任の先生が図書の担当で、熱心に指導してくれたからかな。あと図書室に鍵がかかってなくて、いつでも自由に入れたのも大きいかもしれない」。

これまで自動車図書館などいろいろな仕事を担当してきたそうですが、トータルで考えると児童サーブスが一番長いそう。児童サーブスには、定期的にイベントを開催したり、学校に出張してたくさんの子どもの前で話したり、ボランティアさんに気配りをしたりと、いろんなスキルが求められますが、何より自身が信頼できる大人から本を読む楽



小学生のときに夢中で読んでいたシリーズも、今では手渡す側に。『シャーロック＝ホームズ全集』1～14（コナン・ドイル／著 各務三郎ほか訳 偕成社）

しさを教わった経験が、仕事にも生かされているそうです。

カウンターに来る子どもと接するときには気をつけていることは何でしょうか。

「というか、カウンターに自分から来られる子はいいですよ。自分じやカウンターに来られない、話せない子たちにどう接するかのほうが大事な。そういう子たちの気持ちをつぶさないように気をつけています。最近は防犯上、大人の人に話しかけられても答えちゃダメって教わるでしょ。で、親とか先生以外の大人と話すのに慣れないまま大きくなる子どもが増えてて、それはすごく残念。だから図書館にいる私達を練習台にしてくれたらいいなという気持ちもあります」。そうやって仲良くなった子たちの中には、毎日のように来てくれたり、手作りの本を持って来てくれたりといったうれしい交流も。親でも先生でもない大人の人に自分の話をちゃんと聞いてもらえたという経験は、きっとその子の中で大きな自信につながるはず。

ところが、そんなあたたかいやりとりも、新型コロナウイルスの感染を防止するため、減らさざるをえない状況になってしまいました。

「仕事してても全然張り合いがないです：本当だったら今はインタビューとか受けてる暇がないほど忙しいはずなのに（笑）。（※取材時は夏休み期間）おはなし会もイベントも全部中止。再開のめどもたっていない。本を読み聞かせるときは、肉声で、声の届く距離に寄り集まって行うというのを大切にしてきました。今まで図書館が心がけてきたことがごとごとく封じられて、これからどうすればいいか、すごく悩んでいるところです」。感染



どんな本を読めばいいかわからないときは相談に乗ります。

防止のために、いろんなことがオンラインに切り替わって、人とのやりとりが省かれ、それが「良し」とされていることに対する違和感がぬぐえないと言います。「図書館って、ただ本が並べてあるだけでは意味がなくて。それを直に手渡してあげる人の存在が、子どもたちにとってとても大切」。

ただでさえ本を読まない子が増えている中、状況はますます厳しくなりそうです。図書館にできることを模索する日々は、これからも当然続いていくでしょう。

「中学生のとき、友だちから『図書館は自分が行く場所じゃないな』って言われたことがあって。その子に限らず図書館って、暗い人が行く場所、勉強のために行く場所って思ってる子が多いですね。他に夢中になれるものがあるなら、それで全然かまわない。でも、ほんのちょっとでも行ってみようと思ったとき、いつでも歓迎できるように、間口は広くしておきたいです。ここはあなたの居場所でもあるよって」。



たまには明るいニュースが聞きたいわ



としよかんニュース

もうすぐ
100周年!



古い写真（キャプションは右から読む！）と、仕事の様子が記録されている8ミリフィルム。セピア色の思い出をせっせと掘り起こしています。

2023年、名古屋市図書館は100周年を迎えます！開館当時の利用案内（が、まだ残っている…司書の捨てられない性格が功を奏しました）を読むと、玄関でまず手洗いをしてから入館するよう指示されていました。今との意外な共通点です。3年後、世界がどうなっているのかはわかりませんが、この記念すべき年をお祝いするため、秘密裏に着々と準備が行われているとか、いないとか。

新人さんが
入りました！



10年間（！）新規採用がなかった図書館に、ついに！待ちに待った新人さんが入ってきました！入ったときから「非常事態」で、まだ普通を知らないみなさん…大変だと思いますが、先輩たちも何が正解かよくわかってないので大丈夫です！ともに困難を乗り越えていきましょう。

新人研修でもまず消毒。密にならないよう、広い部屋に散らばって受講しました。



新連載!

図書館司書にインタビュー!

自由研究は終わらない

職業柄(?) オフの時間も自由研究に取り組む人が多い図書館業界。いったい何が彼らを調査へとかり立てるのか。今回からリレー形式で紹介します。

くわしい調査結果は何らかの形で公表予定です!

第①回 齋藤森都さん

――調べたのはどんなことですか。

齋藤：図書館で働く人たちのめがねの着用率です。

――どうして調べようと思ったのですか。

齋藤：この冊子(「めがね」のこと)がきっかけですね。創刊されるときに、図書館の人=めがねをかけてるイメージがあるって話になって、でも本当はどうなの?とと思って。

――齋藤さん自身は、めがねについてどんなイメージを持っていますか。

齋藤：あんまりかけたくないですね。図書館男子はめがねをかけるとみんな同じ見た目になる気がする。最近は年齢的にコンタクトが辛くなってきて(笑) やむを得ずかけてます。

――調査の結果はどうでしたか。

全国の図書館関係者約 650 人を調査した結果、一般の人より着用率は低いという結果になりました。ただ男女別に見ると男性では着用率は一般より高いです。

――なるほど。一般の着用率っていうのはどうやって調べたんですか。

齋藤：『眼鏡 DB (データベース)』という本にまとまっていることを知って。所蔵してる東京都立図書館まで見に行きました。

――熱心(笑)。調査してみると世間的なイメージとは違ってかけてる人がすごく多いわけでもなかったと。やはり、きちんと調べるって大切ですね。

齋藤：小学4年生のときの自由研究で、**コオロギの鳴く回数と気温の関係**について調べたことがあって。すごく大変だったけど、当時の担任の先生がていねいに調べ方やまとめ方をアドバイスしてくれて、それで調べる楽しさを知りました。

――今につながりますね!他に調査してることってありますか。

齋藤：名古屋の民話の本に出てくる場所をデジタルマップに落としこむっていうのをやってます。

――それは完成が楽しみです。

齋藤：いや**完成することは永遠にない**と思います。日々都市伝説は生まれて、年数が経てばそれも昔話になるわけだから。

――終わりのない地図を描き続けるわけですね。すてきです!ありがとうございました!!



名古屋市鶴舞中央図書館について

大正時代に開館して以来、あらゆる書物をせっせと収集・保存し続け、現在の蔵書は約140万冊。江戸時代の古い貴重書なども多く所蔵しており、一部はネット上から見ることができます（くわしくは「なごやコレクション」で検索）。SNSやネット動画に飽きたらこちらをどうぞ。

来館して本を借りるときには貸出券が必要です。窓口で本人確認できるものをお見せください（対象は愛知県に在住・在勤・在学の方）。

フェイクニュースに振り回されないために、自分自身と向き合うために、今こそ本を読みましょう。



おまけ

中村さん (p.6) の机の中にはヘッドライトまで常備してある。世界が闇に包まれてもこれがあれば安心。

／ 次回は来年秋ごろ
／ 発行予定です！

発行：2020年9月

名古屋市鶴舞中央図書館

電話：052-741-3131
FAX：052-733-6337



←HPはこちらから